

(救援新聞神奈川県版原稿)

福島大学「松川資料研究基金」への拠金を訴えます

1949年8月17日午前2時9分、福島県松川町地内の東北本線で起こされた列車転覆事件。この事件で、列車乗務員3人が殺され、犯人は共産党に指導された国鉄と東芝の労組員だという大デマ宣伝が流布される中で、10万人国鉄労働者クビキリも貫徹されました。逮捕起訴された国鉄10名東芝10名計20名の労働者に対して、死刑5名を含む全員有罪の判決を下した仙台地裁判決(1950年12月)に始まり、最高裁上告審全員無罪確定(64年9月)に至るまで5回の裁判が行われました。公正判決・無罪判決を要求する国民的運動を含めて戦後最大の冤罪事件といってよいでしょう。

この「松川事件」「松川裁判」「松川運動」関連の資料を収集整理して、研究教育に資するのみでなく、住民・国民に情報発信する機関として、福島大学が「松川資料室」を創設したのは、1988年10月でした。大学の社会貢献と言いながら、実は会社や行政への貢献が優先される趨勢の中で、極めて貴重な事業です。しかし、行政整理的な国立大学法人化が行われ、大学予算の窮迫と、文部官僚の大学幹部職員教員への天

下り増大に現れるような国家支配の強化のもとで、「松川資料室」は何度も存続の危機にさらされながら現在に至っています。その困難に立ち向かう福島大学の内部の力に私たちも出来るだけ和して「松川資料室」維持発展に力を尽くすべきです。

その一つの方法として、福島大学が地域連携課を事務局として行っている募金への応募があります。2010年7月に1年間・一千万円目標で始められた拠金です。その目標が未達だったのかもしれませんが、募金は未だ続けられています。個人は一口千円で何口でも、ということでは私は三口応じました。国民救援会神奈川の会員皆様がおって下さることを訴えます。

福島大学地域連携課に ☎ (024-548-8012) をして拠金の意を伝えると、書類一式を送って頂けます。やって下さい。

(海老名支部 下山房雄 2012年4月12日)

貼付——新聞切り抜き、東京新聞夕刊2010年8月16日「冤罪松川事件資料室公開整備で募金」、赤旗2010年10月13日「朝の風 貴重な松川資料室」、赤旗2012年3月16日投書欄「福島出身の私 松川事件学ぶ」、赤旗2012年2月25日「松川事件元被告ら 福島大学学長と懇談」

2009年10月松川事件60周年記念集会参加の皆様へ

2012年4月25日

意義深くまた楽しかった福島現地集会へのバスツアーから、早くも2年半が過ぎました。その折に見学した福島大学「松川資料室」が存続可否で揺れて現在に至っているのですが、何とか廃止ではなくて維持発展の方向に向かわせたく、「松川資料研究基金」に皆様が応募する運びにしたいと考え、抛金書類一式を取り寄せました。同封した書類を通覧のうえ、各自が募金に応じて下さることをお願い致します。

なお救援会神奈川支部会員全体にも救援新聞神奈川版4月号掲載の下山会員アピールにある形で募金をお願いしますが、60周年記念集会への神奈川から参加の皆様には、特に同封用紙を使つての早速の抛金をお願いします。

(日本国民救援会神奈川県本部事務局長田戸)